

キタを愛する人たちのための、キタを再発見するマガジン。ネットに載らない情報テコ盛り。

つひまぶ 11月号

つながるひとまちぶんか

北区魅力発信フリーペーパー「つひまぶ」vol.3 2014年11月28日発行(毎年3・7・11月発行予定) 編集・発行:つひまぶ実行委員会/大阪市北区役所+北区のおもろ通信団(浅香保ルイス龍太・おじまあきら・榎橋真理・藤堂千代子・山田寿也・山本宜弘・依藤智子)+大阪市職員ボランティア 連絡先:大阪市北区役所(大阪市北区扇町2-1-27) [tel] 06-6313-9743 [fax] 06-6362-3821 [mail] tsuhimabu@gmail.com [blog]http://tsuhimabu.blogspot.jp(誌面に載せられない情報はブログでね♡) 定価:0円 主な配布場所:大阪市北区役所・北区民センター・大淀コミュニティセンターほか多数(配布場所はブログにて随時お知らせします) ※当雑誌の内容、テキスト、画像、イラスト等の無断転載・無断使用を禁止します。

Donveys は、大淀を中心に活動する草野球チームで、創部39年を数える名門だ。初代監督が経営する「かをる食堂」が、当時、うどんと丼の店だったために、「Donveys」と名付けられた。なんと、日清の「どん兵衛」が発売される76年(昭和51年)よりも1年前のことだ。さまざまな大会で好成績を収め、何度も優勝している。たかが草野球と言っなかれ、伝統も風格も備えた、名門なのだ。この夏は、大阪府下のナンバーワンチームを決めるオリックス・パファローズ杯に出場し、見事決勝に進出した。そして、その決勝戦だけは、オリックス・パファローズが本拠地に行っている京セラドーム大阪でおこなわれる。

この試合の観客たちが理解しているから。それが、5番の古田クンの右前タイムリーにつながっていく。先頭打者が出塁し、そのランナーをクリーンナップが返す。Donveys得意の得点パターンで、2点先制をもちとった。1回裏の守備。ピッチャーの古田クンのつから2球続けてくそボール。緊張しているのかもしれない。なんといっても、このゲームは、京セラドーム大阪でおこなわれているのだ。たかが草野球のくせに。

おっさん野球団、今日も大淀を支える。

バチン！ 乾いた音がこだまし、白球が糸を引いて、右中間を切り裂くように伸びていく。バッターランナーは、打球の行方を追いつながら、ザツ、ザツとベースをふたつ蹴り、加速をつけて三塁を陥れる。先頭打者の榎本クンが、いきなりのスリーベースヒットだ。2番打者の井口クンが、それに続く。三遊間を抜くタイムリーで、プレイボールから瞬間に、Donveysに先制点が入る。3番の田中博クンが倒れ、4番の浪越クンはファーストゴロ。それでも拍手が起るのは、二塁ランナーを三塁に進める右打ちが立派なチームプレーだ。という



2014年 オリックス・パファローズ杯 優勝「Donveys」

いろんな人が、おもろいことやってます。アンテナはっつけよ！

北区の活動情報

大淀で活動している人たち

情報は予告なく変更になる場合があります。参加される方は、必ず事前にご連絡のうえ、参加してください。

懐かしの大阪タワー。2009年解体 ©Quijox

サロンだいにん

●第3水曜
13:00～16:00
●大淀福祉会館 2階 (大淀中3-12-8)
●自由に集える憩いの場として開いています。友だちを増やしたい、おしゃべりをしたい。そんな人が集まる憩いの場です。メインはおしゃべり！趣味のことなど持ち寄って、午後のひとときを楽しく過ごしましょう。最近はずき率高し！

問 北区まちづくりセンター ☎06-6809-1080

手話サークル おおよど

●毎週金曜
18:30～20:30
●大淀コミュニティセンター2階(本庄東3-8-2)
●会員と聴覚障がい者との交流に重きを置いています。日常の交流以外にも、お花見やボウリング大会も。手話を楽しむことで、新しい世界がひろがります。手を動かすことで人の輪を大きくしませんか？

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

病院ボランティア「こもれば」

●月曜～金曜
9:00～16:00
●済生会中津病院 外来ロビー、病棟など(芝田2-10-39)
●利用者の気持ちに寄り添うことをモットーに、自分の希望する活動を続けて、今年で10周年。ロビー案内や患者図書室のサポート、病棟へ図書の巡回サービスなど。エプロン姿を見かけたら遠慮なく声をかけて下さい。

問 大阪府済生会中津病院 病院ボランティア室 ☎06-6372-0333

大淀東 ふれあい喫茶

●第4金曜
13:30～15:30
●大淀福祉会館(大淀中3-12-8)
●冬は手づくりぜんざい、夏はクリームみつ豆、そして一年中あるケーキ。お昼を食べたあとの午後、甘いものと一緒におしゃべりはいかがですか？安くておいしいぜんざいやケーキは、テイクアウトする人が続出だとか。

問 大淀福祉会館地域集会所・老人憩の家 ☎06-6451-7350

大淀西 ふれあい喫茶

●第1・3月曜
9:30～11:30
●大淀福祉会館(大淀中3-12-8)
●朝からやっているのでもーニングがてらに來られる人が多く、ゆで卵か目玉焼き付きトースト、サンドイッチ、ホットドッグなど、メニューもモーニング仕様。具材や付け合わせなどは毎回変わるので、飽きさせない工夫があります！

問 大淀福祉会館地域集会所・老人憩の家 ☎06-6451-7350

みつるポケットをきっかけに近所付き合いをはじめませんか？

梅田スカイビルとなにわ筋の真ん中あたり、光満寺の境内の一角に「みつるポケット」と呼ばれる施設がある。乳幼児を持つ親とその子どもたちが交流できる、大阪市の「つどいの広場」事業が実施されている施設だ。乳幼児親子だけでなく、その兄弟姉妹を連れて一緒に来る人もいれば、外国人の親子の姿も見え、思い思いに時間を過ごしている。

うかがってみると、玄関の向こうにもうひとつ扉があって「子どもたちが勝手に外に出ていかないための配慮、少しドキドキするけれども、中に入ってみると、いろいろの本やおもちゃが置いてあり、ひと息ついてお茶を飲むこともできるので、くつろげる空間になっている。

初めて来る人は緊張するかもしれないけれど、スタッフさんが適度にサポートしてくれるし、子育てという共通の話題があるので、会話も弾みやすそう。

子どもたちも、ひとりで遊んだり、一緒におもちゃで遊んだり、時には喧嘩したり…。なるべく大人が間に入らないようにしているのでも、子どもたちなりの社会を育んでいる。

お母さんのひとりが、「このス



タッフさんは「子育てはみんなですもの。ひとりで子育てをしようとしなくて」と、よく話してくれるし、私もそう思う」と教えてくれた。それもあってか、自分のペースは守りつつも、みんなで協力して子育てをしようという意識が浸透してきて、お母さん同士のつながりが生まれやすい。

また、「近所のスーパーで、みつるポケットで知り合ったお母さんと挨拶を交わしたとき、ここで生活しているんだなと実感した」とうれしそうに話してくれたお母さんもいた。

みつるポケットをきっかけに近所付き合いがはじまり、近所のみんなで子どもを育てる。大淀にはこんな素敵な場所がある。(Tayang)

問 【場所】大淀中1-16-13 【問い合わせ】☎06-6453-1112 【運営時間】月～金 10:00～15:00 0歳児さんの日もあります(要問い合わせ)

編集後記

「行け！大淀号」はいかがでしたでしょうか？ この夏、「つひまぶ」編集部は大淀に通いました。梅田や天満を活動の拠点としている編集部メンバーには、当初、大淀はひと筋縄ではいかない場所に感じられました。お話を聞かせてくださるみなさんの「なんにもないけどなあ」のひとことに、途方に暮れたこともありました。なにもないよと言いつつ、大淀の人たちは幸せそうだと気づいたとき、この地域の姿が見えてきました。大淀は、まちなかでもなく、田舎でもなく、偏りのない場所です。喧騒を離れ、静かに暮らすことができます。それだけではなく、梅田の再開発で、間違いなく影響を受ける地域でもあります。これからの変化が楽しみなところです。私たちが見た今の大淀を、余すところなく詰め込みました。読んでくださった方にとって、新しい発見があれば幸いです。(穂ちゃん)

「つひまぶ」ブログ 毎週月・木更新 http://tsuhimabu.blogspot.jp

大淀はスポーツでつながっている。

実業団でも企業チームでもない、地域の草野球チームが、眩しく輝く大舞台で躍動したのだった。たかが草野球のくせに。

さて、暴投連発でどうなることかと思つた古田クンも、先頭打者をサードゴロに打ち取り、落ち着きを取り戻した。その後、2本のヒットと盗塁で1点を返されるも、丁寧にコーナーを突いて、後続を連続セカンドゴロで打ち取り、スリーアウト。

「真っ直ぐが武器」と照れくさそうに話す古田クンのストレートは、プロ野球や高校野球に慣れた目には、それほど速くは映らない。それよりもむしろ、もうひとつの武器である「空振りを取るカーブ」とゴロを打たせるカーブ」には目を見張るものがある。ボールを半個動かしてバットの芯をわずかに外し、内野ゴロを量産していく。ランナーを出しても粘り強く丁寧な投球をする。バツタバツタと空振りを取るわかりやすい剛球タイプではない代わりに、野球をよく知っている通をうならせる投球をする。

内野陣は、送球がたしかで守備が堅い。外野陣は全員脚力があり、打力があり、特に一番を打つセンターの樫本クンは、長打があり足もある、十徳ナイフのような万能プレイヤーだ。

核弾頭の1番が出塁し、2、3、4番で返す。全員が隙あらば次の塁を狙うし、場面場面に応じて、チーム打撃に徹する犠牲心もある。ここ！という、勝負のチャンスも、全員

一さんが店も監督も引き継いでいる。話は、地域と野球のみならず、他のスポーツにも及んでいく。大淀が見えた瞬間だった。

たとえば、大淀中学校のハンドボール部は、'57年(昭和32年)創部の、知る人ぞ知る名門だ。過去には全国大会に何度も出場し、近年も近畿大会の上位に入る常勝軍団である。OBには実業団のチームに進んだ人もいれば、国体のチームに選抜された人もいる。現在の部員数は、男子13人、女子8人。目標は全国大会出場、そして全国制覇。生徒たちは、日々、厳しい練習を積んでいる。ハンドボールは、「走る」「投げる」「跳ぶ」のスポーツ三大要素がすべて詰まつた、激しいスポーツだ。

「きつと今もそうだと思うけれども、やんちゃな生徒は皆、ハンドボール部に入部させられたの。ということも、私もそうだったのかしら？」朗らかに笑いながら話すOBの木下真弓さんは、今では地域のさまざまな活動に関わり、北区体育厚生協会大淀東支部長も務める、大淀のスターだ。そんな木下さんとともに活動する人たちは、大淀中学校ハンドボール部のOBがたくさんいる。部活時代にできた先輩後輩の上下関係やチームメイトの関係が、地域活動ネットワークに組み込まれる。厳しい練習によって培われた信頼関係は、大淀では、生涯にわたって生きる。八阪神社の宮司で大淀東社会福祉協議会会長でもある岸本恒夫さんは、ハンドボール部ではなかったけれども、部の顧問が体育の先生だったこともあり、同じ先生に体育を教わった縁で、木下さんとは二人三脚で地域の課題に取り組んでいる。

取材・撮影 構成・文 浅香保ルイス龍太



がわかつていいる。そのうえで、投球には粘りがあり、守備が堅い。阪神タイガースは見習ったほうがいくらいの、野球をよく知っている大人のチームなのだ、Donveysは。たかが草野球のくせに。

ゲームは、両チームともに小刻みに点を積み重ねるものの、先制したリードを守りきった Donveys が4-2で勝利する。監督が何度も宙を舞い、この日ばかりはと駆けつけた選手の家族たちが、グラウンドになだれ込む。息子に、どや！とガッツポーズをし、お父さんの顔をのぞかせる選手が。優勝を確信していたのか、あらかじめ招待していたファイアンセと一緒に記念写真を撮っていた田中博クンがいる。それを見たキャプテンの藤木クンが、田中博クンとファイアンセにトロフィーを持たせ、真ん中に座らせて、全員で記念写真を撮る段取りをはじめた。藤木クンはとてもリーダーシップのあるキャプテンだが、そのキャプテンシーは、こうした気配りにも表れている。記念写真には、獲れたての真イワシのようなピカピカの満面の笑みを浮かべた選手とその家族たちが、ピチピチと跳ねながら収まっていた。

監督の信頼も厚い藤木クンは、大淀育ちの35歳。20代、50代で構成される Donveys を束ねるキャプテンであると同時に、八坂神社の夏祭りや秋祭りで子どもたちを仕切る若中頭でもある。夏になると、およそ50人の子どもらが曳く地車を、統率する。投手の古田クンは、幼稚園から野球を続ける、根っからの野球好き。地域の子どもたちにソフトボールを教えていたとき、現監督の井口泰一さんに誘われて、Donveysに

加わった。Donveys は、たかが草野球に熱く真面目に取り組むチームなのだけれども、それだけではなく、じつは、地域を下支えしている人たちが何人もいて、たかが草野球どころではなかったりするのだ。

Donveys と出会ったのは、淀川にほど近い大淀中5丁目にある大衆食堂「かをる食堂」のこと。北区でもあまりスポットの当たらない大淀を取り上げたい、今号のつひまぶはそんな思いからスタートしているのだけれども、いつか、大淀について詳しいわけでもない。そういうなかで、最初にお話を聞きに行ったのは、大淀西第五町会長の加藤加代子さん。彼女は、元・ホテルプラザの製菓部門に長年勤め、関西中の有名パティシエともにお菓子づくりを学んできたパティシエでもある。近年は、お年寄りを中心とした交流の場である「ふれあい喫茶」で、腕を奮われてきた。

そんな彼女に案内されたのが、かをる食堂だ。地域での寄り合いやイベント後の打ち上げなどは、この、かをる食堂がよく利用されるのだとか。つまり、地域のちよつとしたハブになっている食堂なのだ。かつ、お菓子づくりのベテランのおメガネにかなうほど、安くて美味い。

その、かをる食堂の壁には、所狭しと、何枚もの表彰状が掲げられていた。Donveys の輝かしき戦績である。

かをる食堂の先代が Donveys の初代監督に就き、現在では、息子さんである井口泰

それだけではない。

毎週水曜の夕方、浦江公園グラウンドを訪れてみれば、サッカーに興じる子どもたちの姿を目にすることができ。大阪市・堺市をホームタウンとするJリーグの「セレッソ大阪」が運営する子どものサッカースクールの練習がおこなわれている。子どもたちは、そこでサッカーを楽しみ、好きになり、日本サッカー協会公認資格を持ったコーチによるたしかかな指導を受ける。Jリーグが打ち出す百年構想には、『観る』『する』『参加する』。スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げる」というものがあるが、そのことが、大淀では実現している。

また、五輪選手を何人も輩出するパレーボールの名門「JTMアヴェラス」は、体育館こそ西宮市にあるが、チームを仕切る事務局は大淀南の日本たばこ産業(株)大阪支店内に置かれている。

前述したように、地域の大人たちが教える少年ソフトボールも盛んだ。さらに、大淀小学校のPTAでつくるソフトボールチームは、この10年間、区内での年2回の大会で13回の優勝を数え、ぶっちぎりの強さを誇っている。

そんなふうに、大淀ではスポーツが盛んなだけでなく、スポーツを通じて形成されたネットワークが、そのまま地域を下支えするネットワークになっていて、豊かな人的資源をつくりあげている。

「なにもないよー」。大淀の人たちは判で押ししたように言うけれども、だからといって不満そうではない。むしろちよつと楽しそうに、笑いながら答えてくれる。でも、その主旋律の背後には、「住みやすい、人付き合いがしやすい」がある。きつと、盛んなスポーツを通じて、「自分たちのまちは自分たちでつくっていく」とする気持ちのいい心映えの持ち主たちが、つながっているからなのだと思う。(終)

大淀中学校 ハンドボール部

1957年(昭和32年)創部。以来、全国大会にも出場し、近年は男女ともに近畿大会上位に入るなど、常に輝かしい成績を収めてきた名門クラブ。ハンドボールの日本最高リーグである実業団で活躍する選手も輩出している。「クラブだけではなく、学校生活の中で自分を大切に、友だちを大切に、仲間とともに向上する」精神は、卒業後も生き続け、現在の大淀を支える地域ネットワークには、クラブOBが多数いる。

軟式野球チーム「Donveys」

創部39年を数える、大淀の名門草野球チーム。初代監督がうどんと丼の店「かをる食堂」(大阪市北区大淀中5-13-13)を運営していたため、「Donveys」と命名される。これはなんと、日清の「どん兵衛」が発売される1年前のこと。現在の50代が創成期を支え、40代が第2期を支え、現在は20代と30代を支える第3期に入っている。親子で参加しているケースも多く、少年ソフトボールを教えている選手もいるなど、スポーツを通じて大淀に根づいているチーム。白地のユニフォームに赤ロゴがかっこいい!



セレッソ大阪 サッカースクール 大阪北校

Jリーグクラブが運営するものとしては北区唯一の子どもサッカースクールとして、1997年(平成9年)に開校。幼稚園(年長)~小学2年生、小学3年生~小学6年生の 카테고리別に、毎週水曜日に浦江公園グラウンドで練習がおこなわれており、「サッカーを通じて、夢と喜びを共有し、地域に根ざした選手発掘と社会貢献」の理念を実践している。スクール詳細はHPを。HP (<http://www.cerezo-sportsclub.or.jp>)



ハニーバーは 毎月第2・第4金曜 19 時開店

梅田スカイビルの北西に、月 2 回、小さく控えめな看板が出ます。「Honey Bar」。じつはここ、NPO 法人梅田ミツパチプロジェクトが手がけるお店です。梅田のビルの屋上で育てているみつばちがつくるハチミツをおいしくいただけます。つまり、梅田産のハチミツを味わえる、都会では珍しい地産地消のお店なのです。梅田みつばちのハチミツの特長は、ハーブのような香りなんだそうです。お酒以外にも、自家製ハニーリモナードや、ハニー紅茶も。ハチミツパンケーキは、ぜひ食べていただきたい一品！メニューはすべて店主である小丸さんが考案。とはいえ、小丸さんの本業は設計士。梅田ミツパチプロジェクトは職種も年代もバラバラだけどおもしろいことをやりたい人たちの集まりなんだとか。おもしろいことをやってる人のわくわく感があふれているお店です。(穂)

【所在地】 大阪市北区大淀中 1-8-19 大淀 BASE 2 階
【営業】 第 2・第 4 金曜のみ 19 時～だいたい 25 時くらいまで
【tel】 06-6147-3761 【HP】 <http://ume-pachi.jp/>

大淀の兄弟神社



大仁の八阪さん



浦江の八阪さん 早乙女神楽

大淀にあるふたつの神社、素盞鳥尊(スサノオノミコト)神社と八阪神社は、旧浦江村と旧大仁村の鎮守さまで、通称、浦江の八阪さんと大仁の八阪さん。宮司は岸本さん兄弟、先代宮司も兄妹なので、地元では兄弟神社と呼ばれています。どちらも地元との結びつきが強く、大仁の八阪さんの夏祭りは、露店商でなく地元町会が屋台を出し、浦江の八阪さんの秋祭りでは、地元小学校6年生女子8名の巫女による早乙女神楽が奉納されます。近年は子どもが増え、その選抜が狭き門になってうれしい悲鳴だとか。こういう地元との関わりが、長くこの地で鎮守さまとして祀られているゆえんです。(ミ)

【八阪神社 (大仁の八阪神社)】
大阪市北区大淀中 3-1-23
【素盞鳥尊神社 (浦江の八阪神社)】
大阪市北区大淀南 3-3-25

摩天楼と田んぼの素敵な関係

新梅田シティ、梅田スカイビルの北側に里山がひろがっています。棚田もあります。日差しが強くなる季節に青田が出現するのは、もはやこのあたりの夏の風物詩ですね。今では、そのバックに、グランフロント大阪のビル群をしたがえています。見事な借景。ここでは、積水ハウスさんが、2007 年から大淀小学校の 5 年生の児童たちと一緒に、米づくりに取り組んでいます。棚田は約 100 坪で、上段にもち米、下段にはヒノヒカリが栽培されています。収穫高は、毎年約 35kg。児童たちは、田植えだけでなく、草取り、稲刈り、そして脱穀まで関わり、米づくりの大変さを学びます。トータルでは、新梅田シティで働く人



たちでつくる「新梅田シティ里山くらぶ」のみなさんが、専門家とともに、朝活、昼活、休日を使って、棚田のみならず雑木林や竹林、野菜畑、茶畑などで構成された「新・里山」を手入れし、都会の真ん中で「農」を体験されています。こうした試みの元になっているのは、積水ハウスさんの「5本の樹」計画。ハウスメーカーの枠を飛び越えた、素敵な計画です☆
詳細は、同社の HP を。(ル)

号泣する準備はできている @ 淀川の橋桁

ひとりで泣く場所はありますか？泣きたい気持ちのとき、どこへ行きますか？誰にも見られずに、大泣きできる場所が、淀川にあります。そう、鉄橋の下の橋桁です。大きな声をあげても、電車が走ればその騒音でかき消されます。電車がすれ違えるほどの広さがある鉄橋の下では、ちょっとやさつこのことで人に見つかる心配もありません。ここは、南ちゃんが泣いていた場所にそっくりです。そう、あだち充さんの代表作『タッチ』のヒロイン南ちゃんが、幼なじみのカツちゃんの死に直面したときに泣いていた、あのシーンです。悲しいけど、人には悲しさを見せられないとき、来るべき場所を見つけました。(穂)



© あだち充 / 小学館

ビバ大淀はなぜ愛され続けるのか

1919 年 (大正 8 年) 11 月に、旧鷺洲町営の浦江市場として開設、1963 年 (昭和 38 年) 5 月の町名改正で大淀公設市場と改称。マルシゲとして生まれ変わったのは、今年の 4 月のことです。今でも、正面入口のスーパーマーケットマルシゲの看板の右肩や、裏手の入口、ちょうど女性の目の高さあたりに「Viva 大淀」の名前を見ることが出来ます。正面から入ると、野菜コーナーがあり、果物、魚と続きます。毎日使うものや、毎日のように食べるものが気持ちよく並んでいます。はやりの食材や、珍しいものではなく、家庭料理の食材が主です。100 円均一があるのもうれしいですね。しかも毎週月曜は 10% オフだなんて素敵！大淀の人々は、日々の暮らしを大切にしている印象があります。ビバ大淀は、そんな大淀の人々の普段の生活を支えるもののひとつとして、長年あり続けています。日常の場所だからこそ愛され続けているのかも知れません。Viva ! 大淀。(穂)



【所在地】 大阪市北区大淀中 3-2-2
【営業】 9:30~21:00 無休 ※毎週月曜は全品 10% オフ

改装 OK・原状回復なし・事務所×倉庫・オフィスっぽくない・レトロな味わい

夜、とっても静かな大淀にあって、妖しい異彩を放つビルがあるので。イタリアン、うどん屋さん、ビストロ、ダイニング…、隠れ家的なお店からオシャレなお店まで。ビルのなかに一歩足を踏み入れると、意外と奥が深く、ちょっとした迷路です。変なオープンスペースもあります。何のお店なのか、オフィスなのか、さっぱりわからないところもあります。迷路というよりも、魔宮(笑)おもしろそうな雰囲気醸し出しているお店がたくさんあって、好奇心旺盛な人なら、きっと、トビラを押してみたくになります。イヤでも目に入る、ビルの壁面にデカデカとある募集看板を見ると、それも納得です。改装 OK・原状回復なし・事務所でも倉庫でも。自由度がめっちゃ高い！有名チェーン店も入っているので、そこから攻めてみるのもアリです。さて、新しいことをやってみたいあなた、この物件、どうですか？(ル)



【所在地】 大阪市北区大淀南 2-1-17 松下ビル

出世温泉で出世？

どっからど一見ても、フツの銭湯。でも、銭湯自体、すでに珍しい存在ですよね。次々と廃業していくなか、出世温泉は大淀に根を張って 50 余年。来る人が出世するようにと命名されたのでした。そのせいもあってか、じつは超大物お笑い芸人や超大物俳優も訪れるという、隠れた名湯なのです。ちょっとした露天風呂もあり☆(ル)



【所在地】 大阪市北区大淀中 5-2-11
【営業】 15:00~0:00 月曜休み

自動車整備工場が多いわけ

新梅田シティは、ダイハツディーゼル本社・工場がメインの跡地に建てられたので、その協力工場のようなかたちで大淀には今も自動車整備工場が多いのかと思いきや、そうではなく、1874 年 (明治 7 年) 5 月 11 日に梅田停車場 (大阪駅) が開業したのを機に、物流の最先端である自動車が数多く行き来したから。ということは、当時の大淀は、ある意味で最先端エリア！(ル)

大淀を知る 10 のこと

印刷オン・マイ・ウェイ

大淀には印刷業大手のトッパングループの工場や出版販売のトーハンをはじめ、印刷出版に関わる大小さまざまな企業がたくさんあります。そのなかにあって、ひと際、個性あふれる展開をされているのが榊大同印刷所さんです。三代目社長さんは、製紙会社勤務時代に培った豊富な紙の知識を持ち、元来機械好き。そのため、一般的なオフセット印刷だけでなく、活版、箔押し、エンボス、デボス、バーコ、小口染め、ツルツルのフィルムからフワフワの起毛紙まで、特殊な紙への印刷も得意とされています。取材にうかがった日には、ちょうど新作ポストカードを印刷するとのことで、手動活版印刷機 (デフォート) による印刷を体験させていただきました。一枚ずつプレスしてできあがるのは、手刷りならではのなんとも温かみのある一枚！「自分でやってみたい！」という方のために活版の魅力に触れるワークショップも月 1 回のペースで開催されています。詳細情報はブログを。(依)



【所在地】 大阪市北区大淀中 3-8-11
【営業】 9:00 ~ 17:00 第 1・2 土曜、日、祝休み
【tel】 06-6453-2041 【blog】 <http://kappan.did.co.jp/>

心と体の解放区、淀川

春になると、まだ育ちきっていない若草の匂いが立ちこめます。夏、強い日差しが緑をより濃くします。秋には、揺れるススキを背にすると対岸に沈む夕日を見ることが出来ます。冬ともなれば、肌を刺すような強い風が吹き抜けます。淀川は、季節を強く感じられる場所です。

ビルに囲まれたまちの中にいると、感じることはできて体感することのないものがあります。

解放感と安らぎ。淀川に行くと、ひとりでいるのに、寂しさを感じません。虫の音や、立ちのぼる草いきれや、少し離れた場所から響く人の声や、橋を走りすぎる人の息づかいを感じることが出来るからです。目の前には、見通せないほど長くのびる河川敷があり、川に近づけば、野球のできるグラウンド、沼地、植物園であります。けっして洗練された空間ではなく、かといって放置されている場所でもありません。

その加減のよさがほっとさせてくれます。まちにずっといると、刺激的で楽しい反面、少し不機嫌そうな顔でせつかに歩く人や、猛烈に吹いてくるビルからの攻撃的な風や、知り合いでもないのに常に自分の近くに人がいる居心地の悪さに、体も心も萎縮してしまいます。そんなとき、持て余しているとしか思えない、淀川の広々とした河川敷に身を置くと、きゅうきゅうに押しこめられていた心が解放されて、歩くほ

どに体がそれについていきます。腕を伸ばしてみても、何にも届きません。何もかもが遠くに感じられます。まちなかで、気を抜くと人にぶつかってしまうのは、大きな違いです。自分のペースで、立ち止まったり、寄り道したり、方向転換することもできます。たったそれだけで、気持ちは安らぎます。こんなふうに、思うままに歩いたり走ったりすることができる場所は、そう多くはありません。大淀の淀川に

かぎっては、夜中でも意外と安全です。また、河川敷を離れ、堤防に登ると、川の水面と対岸が見えます。川の流れは緩やかです。自転車を止めて眺める人が多いのもうなずけます。堤防から夕日を見ると、都心からすぐの場所とは思えない風情があります。淀川という自然の中に身を置いて、ときどき自分を解放してみるのもいいかもしれません。(穂)



12:45

十三バイパスの高架下には
カニがいっぱい(夏季)
カニパブラーにも
会えるかも……

12:00

バンドでサンドイッチと
ロールケーキを買って
元 Viva でカフェオレを
買い、淀川を目指す!

11:30
なにわ筋の歩道橋
から南を見ると
グランキューブ大阪
が見えるよ。

10:30
あなとこや、こんなとこ
で記念写真。どこで撮って
も絵になるよ。地下の
滝見小路も忘れずに。

10:00
梅田スカイビル広場に集合!
ここは、世界の建築 TOP20
に選ばれ、世界中から
人々がやって来るよ

13:00

淀川の土手でお風呂ハン
川を抜ける風がとっても
気持ちいい。ロールケーキ
も、ひと味ちがうね!

14:30

大淀の西側を散策
おしゃやれなカフェや
ショップはないけど
キュートなニャンゴは
いっぱいいるよ!

15:30

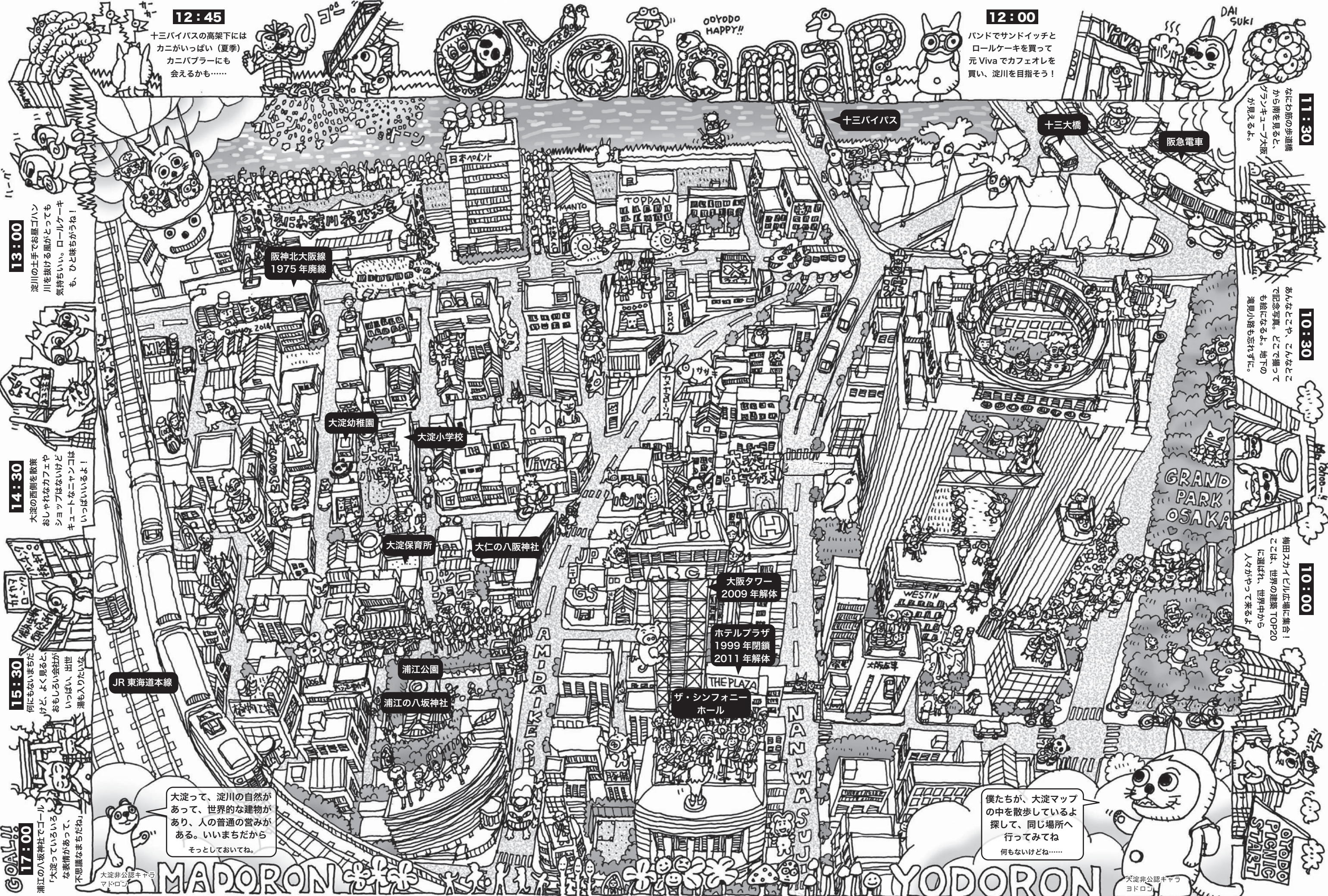
何にもないまちだ
けど、よく見ると、
おもしろい会社があ
れば、い、出世
満ち入りたいな

GOAL!!
17:00

浦江の八坂神社でゴール
「大淀」にいるとい
な表情があつて、
不思議なまちだね」

大淀って、淀川の自然が
あって、世界的な建物
があり、人の普通の営み
がある。いいまちだから
そっとしておいてね。

僕たちが、大淀マップ
の中を散歩しているよ
探して、同じ場所へ
行ってみてね
何もなければね……



キタのええもん キタの手みやげ

キャンドルハウス青山 LEDキャンドル「ルミナラ」



キャンドルハウス青山
【所在地】大阪市北区大深町 4-20
グランフロント南館 5F
【tel】06-6485-7790
【営業時間】10:00～21:00
【定休日】グランフロントに準じます

カメヤマキャンドルハウスの直営店「キャンドルハウス青山」が、グランフロント南館にあります。壁一面に並んでいる色もかたちもさまざまなキャンドルは、店員さんもわからないほどの数。色とりどりのかわいいキャンドルがある店内は、子どもだけでなく大人もくぎ付け、カラフルなキャンドルは、まるでクレヨンのようにウエディングや、ハロウィン、クリスマスなどの四季の行事に合わせたキャンドルだけでなく、子どもに人気のハロキティ、ミッキーマウスなどのキャラクターキャンドルや、思わず食べたくなるマカロン、パステルケーキ、カラフルなこんぺいとうなど、かわいいキャンドルがたくさんあって、どれも火をつけて燃やしてしまうのがもったいないほど。ちよっとしたプレゼントにおすすめて。

かわいキャンドルばかりではなく、ビール、どら焼き、いちご大福、たい焼き、たこ焼きまで、大阪特有の笑える商品があります。これなら、大阪みやげとして喜ばれるでしょう。最近では女性だけでなく、男性のお客さんも増えていきます。奥さんのためにいろいろな香りを試しながら悩んでいる男性の姿は、ほほえましい感じがします。

悩んだときには店員さんが親切にアドバイスしてくれるので、ご安心ください。

ディスプレイにも気配りがあります。夏にはガラス鉢に入った金魚、秋には枯葉、きのこ、ハロウィンにはカボチャ、クリスマスにはツリーなど、季節や行事ごとに変ります。この変化を見るのも楽しいです。

店内で気になったのは「ルミナラ」。見た目は炎に見えますが、実際は本物の「炎のゆらぎ」を再現したLEDキャンドルです。火を使わないのでインテリアとして、玄関やリビングに飾るとおしゃれです。また、神仏用ろうそくの代わりとして利用するのも消し忘れの心配もないので便利。

キャンドルの炎から出るマイナスイオンと炎の揺らめきは、そよ風のような心地よいリズムを刻み、そこには、ライトセラピーという効果があるのだそうです。また、アロマキャンドルから出る香りの種類は大変に多いのだということも、ここで初めて知りました。

そんなキャンドルを、自分の癒しのためだけでなく、大切な人へのプレゼントにいかがですか？
これからどんな商品が出てくるのか、グランフロントに行く楽しみがひとつ増えました。ご参考までに。ろうそくの国内シェア50%以上を誇るカメヤマ株式会社の本社が、大淀にあります。梅田キャンドルナイトに協賛しているのも、披露宴のキャンドルサービスを考えたのも、カメヤマ株式会社です。

(ミリちゃん)



第二回目

喫茶Y

大阪市北区豊崎 1-3-1
tel. 06-6373-2688
営業時間：
8:00～18:00
※モーニングは、～11:00
定休日：日・祝

「喫茶Y」という、ひじょーにきつついお店があります。今回、大淀特集という企画が出来ました。大淀の、きつついもん。最初に思い浮かんだのが、この喫茶Yでした。いやいや、いかんいかん。何か別のものは、そうそう喫茶Y。あ、いや、ちゃうねん、それやおて、喫茶Y。

そう、僕の貧困な北区データベースでは、大淀という喫茶Y、これしかなかったんですね。それで、仕方なく「喫茶Y」へ行くことにしました。

地上の「Y」は初めてでした。むかし、地下にあったときはものすごく狭かったのですが、結構広くなりました。でも、おばちゃんは相変わらずでした。座席が増えても、超マイペースで商売してはります。

今回は、モーニングにチャレンジです。「アメリカンスタイル大」というのがすごいと聞いていたので、当然それにします。そして十五分後、現れたそれは……。

なんとということでしょう。お皿の上には、卵十個分のスクランブルエッグと、それに見劣りしない量のハムとベーコンが乗せられているではありませんか。こ、これは朝から縁起がいいY、なんて思わずオヤジギャグのひとつも漏れますよね。漏れないですか。そうですか。

忘れてはならないのが、これはあくまでモーニングだということ。そう、パンです。パンが必ず出てくるのです。それは山パンで、しかし今までに見たことのない形をしています。お皿の上で、あたかも雨米ギアナ高地のテールマウンテンのようにそそり立って



(おじまあき)

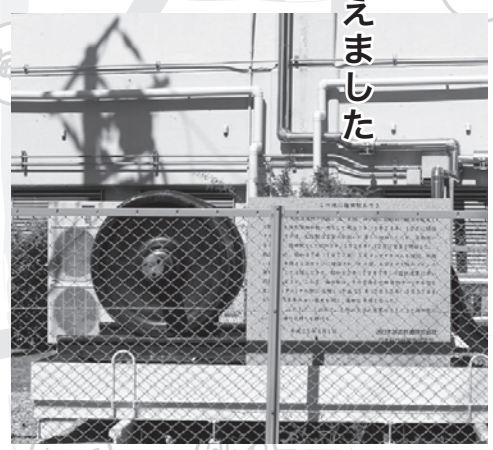
いるのです。高さが、ではなくて、厚さが、です。厚すぎるのです。「一斤の半分や」と、おばちゃんはさらっとそう言いました。一斤という、普段見慣れたあの食パンひとかたまりの大きさです。もちろんあれは一人で食べきるサイズではありません。普通、二人でも食べません。

ものすごい量のモーニングを前に、しかしただ圧倒されているわけにはいきません。こちらとてフードファイターの端くれ(嘘です、うそ)と、とにかく地道に食べるしかありません。そう、あの黒四ダムのトンネルだって、固い岩盤とわき出る地下水にもめげずひたすら掘り進んで完成したのです。ひとくち、またひとくち。食べ進める脳裏に中島みゆきの「地上の星」がまわりはじめます。そして、ついに、目の前のお皿の上から、食べ物姿が見えなくなりました。

そこに、おばちゃんがやってきました。「はい、あと残りのパン、半分ね」「はい、一斤だったかあー……っ！」

駅探 えきたん JR貨物 梅田駅 JR Koyasu Umeda

立派に役目を終えました



北区内で、昨年ひとつの駅がひっそりと廃止されたのをご存じでしょうか。大阪駅の北にあった、巨大なJR貨物の「梅田駅」。一般的には「梅田貨物駅」と呼ばれていました。荷物しか降り降りしない駅なので、ピョンと来ないかもしれませんが、これも立派な駅なのです。

その、梅田貨物駅跡の片隅に、ひっそりと記念碑が建てられました。JR西日本とJR貨物が共同で設置した「ここに梅田駅ありき」。梅田貨物駅を中心に、鉄道創業からの貨物輸送の歴史が刻まれています。記念碑の横には貨物駅があったんだなあと思わせる車輪も設置されていて、鉄道遺産だという存在をアピールしているようです。

1928年(昭和3年)に設置された梅田貨物駅ですが、物流の主役が鉄道だった頃には、大阪の商工業に欠かせない物流施設として、広大な敷地を生かし、緑の下の力持ちとして活躍しました。しかし、高度経済成長期に、貨物輸送の中心は鉄道からトラックへと移り、また、国鉄の合理化計画などもあり、貨物駅を廃止して土地は売却されることに。梅田貨物駅は昨年3月に役目を終え、その機能は物流の大動脈である東海道本線上の吹田貨物ターミナル駅と、大阪市東住吉区にある百済貨物ターミナル駅に移りました。



北 モノづくり 最前線

第二回目

カレンダー名前入れ専門印刷機製造・販売 (資) 黒田鉄工所



独自の発想で静粛性、安全性、機能性を高めて進化を続ける印刷機「クラウン」と黒田さん。

年末の慌ただしい時期に、いつも利用している商店や会社の名前入りカレンダーをもらうと、今年も終わりが来たなあと感じる人は多いはず。今回は、カレンダーに名前入れをする印刷機の製造販売と印刷までをおこなう、本庄東三丁目の黒田鉄工所代表、黒田達男さんにお話をうかがいました。

商店や会社の名前入りカレンダーは、もともと下のスペースが空いている状態のものがカレンダーメーカーから発売されており、その中から好きなカレンダーを選んで、自分の屋号や社名を印刷したものが、みなさんに配られています。

名前入りカレンダーをもらうことは、私たちにはごく普通のことだと思っていたのですが、そのことについて興味深い話を聞くことができました。

「商店や会社の名前を入れたカレンダーを無料で配る習慣は日本独自で、他に台湾や韓国の一部でおこなわれているだけなので、日本で進化したのではないか」とのことです。そのため、カレンダーの名前入れ印刷機は、日本国内で製造されています。しかも、現在するメーカーは黒田鉄工所以外は消滅したとされているため、台湾や韓国にも輸出をおこなっており、現地でも活躍しているそうです。

長い歴史があり、鉄道会社にとっても、大阪を代表する貨物駅の功績に対する思いがあるので、それを顕彰するため、記念碑が建てられたのだと思われまます。多くの人に大阪の礎を伝えるためにも、この記念碑は人の目に触れられるようにしていただきたいですね。

今、梅田貨物駅があった場所は更地になっていて、当時の面影はほとんどありません。これから再開発されると、近くて遠かった新梅田シティなど、大阪駅の西北部にある大淀地域は梅田とダイレクトに結ばれます。便利になる反面、既存エリアが梅田に取り込まれる可能性も。今後、どう変わっていくのか、期待とともに見守りたいです。(なみはやノーツ)



なにことも、
みんながいるからできる。
ひとりではできない。

生活協同組合おおさかバルコープ
「くらしのたすけあいの会」代表幹事
北区大淀東地域社会福祉協議会副会長
木下真弓さん

聞き手・書き手／棚橋真理
撮影／浅香保ルイス龍太

大淀生まれ、大淀育ち。

生活活動をメインに地域活動にも数多く取り組む、大淀といえばこの人、と言われるスーパースター・木下真弓さんに、お話をうかがいました。

あだ名はサンサン

旧姓の三田、またはサン。太陽の意味にかけてだったのかもしれない。当時から周りを巻き込む明るさを持った人柄だったことがよくわかるあだ名です。中学時代はハンドボール部に所属。「やんちゃな子はみんなハンドボール部にスカウトされた。私はやんちゃではなかったはずだけど」と笑っています。

生協にはいろいろな活動がありますが、木下さんが活動しているのは、地域生協。「一定の地域内に居住する消費者によって組織された購買生協」です。購買生協とは、組合員の生活に必要な商品・サービスの供給を中心に行う生協のこと。最近のスーパーマーケットでも実施している、お客様の声を聞きます、という取り組みのハシリで、自分たちがほしい商品をつくってもらおうというものです。たとえば、無添加の薄切りハムがほしいとき、生協では生産業者と交渉します。生産業者につくってもらうためには、自分たちがどれだけ買えるかが重要です。生協では、組合員が共同購入するので大量に購入することができます。ひとりではできないことでも、たくさんの方が集まるとできるようになります。また、売れるとわかれば、業者もつくってくれようになります。そうやって、安全で安心できるものを、ひとつずつ確保していきます。「昔は無添加のハムはブロックでしか売ってなかったよね」と振り返られます。

生協には、組合員であるための三つの約束があります。「出資」「購入」「運営参加」。組合員は、この三つに取り組みむことが求められます。先ほどの無添加ハムのお話だと、生産業者と交渉する「運営参加」だけでなく、「購入」も大切な取り組みのひとつだということがわかります。

商品だけではなくありません。たとえば、目が不自由な人向けに音声の注文書をつくっています。「目が不自由でも、音声の注文書があれば自分で買えることができる、誰でも同じように買えることができるのが大切」と話されます。また、高齢者の昼食会も数ヶ所で開催されているそうです。しかし、何年も同じ活動を続けていると、調理する側も中だるみします。そこで、昼食会をはじめ

て話されます。名門と謳われる大淀中学校ハンドボール部は、部員同士のつながりが強く、それは、今の地域活動にまで続いています。「先輩は一生先輩、後輩は一生後輩（笑）」だそうです。

実家が食堂だったこともあり、大学卒業後、阿倍野の辻調理師専門学校に入学します。卒業後はそのまま母校に就職。専門は中国料理。といっても、料理だけにとどまりません。なんと中国語まで勉強してしまっています。「料理は、技術だけではない。背景にある文化や、歴史、言葉、いろんなことを知らないといけない。中国料理にかぎらず、フランス料理も同じ。日本料理のプロはお

10年経った頃に、レシピ集を出しました。「薄い本だけどね。いつもと違うことをしたら、みんなが考えて、楽しんでできる。そうして、次もがんばろうという気持ちになる。活動を続けていくために、参加者の刺激になるようなことをときどきやる」のだそうです。

また、「みんながいるからできる。ひとりでは、できないからね」とも話されます。生協活動を続けている理由は、「生協は自由なんでもできる。いろんな分野で支えてくれるシステムがあって、人がいるからやりやすい」のだそうです。だからこそ、30年以上も続けていられるのだと。

ボランティアの意味

寄り添うこと、勝ち取っていくこと

インタビュー中、一度だけ木下さんから質問を受けました。「ボランティアの意味って調べたことある？」

ボランティアという言葉には、寄り添うという意味もあるけれど、闘うという意味もあるのだと。自分たちで勝ち取っていくのもボランティアなのだ。木下さんは、どちらかというと、闘っているように見えます。

木下さんが生協の中で仲間とはじめられた取り組みのひとつに「くらしのたすけあいの会」があります。阪神・淡路大震災のときに、ボランティアをされていたことがきっかけで生まれました。

被災者のもとを訪問し、必要とされているものやサービスを聞き、それを届ける活動です。避難所や仮設住宅をまわり、温かい食べ物をお届けしたり、話し相手になったりといろいろなことをされたそうです。

一緒に活動していたボランティアは100人ほどいたのだと、そのまま解散するのは惜しい、これからも何かできないかとの思いから、組合員同士が困った時はお互いさまの気持ちで支えあう「くらしのたすけあいの会」が誕生します。

この活動は、長く続けていくために有償ボランティアの家事支援活動になりました。

茶もお花もするでしょう、それと同じことと。そうおっしゃる木下さんは、なにごととどことんやる人でもあります。

料理の世界にいた頃は、何度も香港に勉強に行かれたそうです。多いときには、年に4回も！日中国交正常化が成ったときには、中国本土を巡るツアーに参加し、上海から西安、北京を訪れています。当時、西安では中国語が話せる日本人女性が珍しく、料理の勉強をしにきたと言うと、厨房で2日ほど働かせてくれたのだとか。長い内戦の結果、男手が少なかったこともあり、厨房で働く女性や大型バスを運転する女性に出会ったりと、社会で働く女性の姿をいち

また、東日本大震災の復興支援もおこなっていて、「被災者のなかには生協の生産業者もいます。立ち直ってほしいとの願いもある」と話されます。パルコープでは、今でも現地へボランティア・バスを出し続けています。「ボランティアはもういいと言われているまでやる」と力を込めて語られました。人に寄り添うことは、相手がいいと言うまでやり続けること。木下さんは、そんな、あたりまえなのに忘れがちなことを、あたりまえに忘れずに実行します。その、真っ直ぐさと熱意に、周りの人は感化されます。

自分たちのことは自分たちでやる

地域活動についてうかがうと、「生協も地域活動も同じ」という答えが返ってきました。「どちらも、ひとりではできない。先にやっている人がいるからできる。大淀には、やってみたらいいよ、と後押ししてくれる風土がある。それに、自分たちのことは自分たちでやるのがあたりまえ」と。

たしかに、生協のお話と重なります。木下さんにかぎらず、大淀で地域活動をしている人たちは、公的機関や大きな組織に依存しがちな事業でも自分たちでやろうとしているように見えます。何かをするにあたって、賛同する人を増やすこと、理解を得ることに力を惜しみません。言い続けること、やり続けることは、簡単なようで簡単なことではありませんが「自分たちのことだから」とあたりまえのようにおっしゃいます。

木下さんがこれからやりたいことも、そんな事業のひとつです。

現在取り組んでいる活動のひとつに、週に一度の認知症予防「頭も体もちょっと動かして元気になる教室」があります。参加者が欠席するときには必ず連絡をもらうようにしたところ、近所の人に伝言するなどの思わぬ横のつながりができたのだそうです。「これをもっと強くして、高齢者が集まれる場所をつくりたい」と。

また、大淀には児童館がないので、子どもに家と学校以外の、第三の居場所をつくってあげたいと考えているとか。「高齢者の集

早く目に焼き付けられたそうです。北京では、まちなかで人民服を着て銃を撃つ訓練をする人を見たり、大学で勉強しても職業の自由がないと話す学生に出会ったりしました。国によって状況が違うことや、戦争が人に与える影響を思い、平和であることの大切さを感じられたそうです。また、同じツアーに参加していた新聞記者から、水俣病の話聞きます。そのことが、環境問題を意識するきっかけにもなっています。「中国で出会ったすべてがカルチャーショックだった。この旅行で見たもの、聞いたものが、触れたものが、その後の木下さんに大きな影響を与えることになりました。」

仕事に熱中していた木下さんが結婚したのは、30歳のとき。職場結婚でした。ご主人の長期出張が多いため、結婚後も木下さんの地元である大淀を生活の拠点に。フランス料理が専門のご主人との出会いは、木下さんが学校の学術出版部で仕事をしてたことがきっかけだったそうです。ご主人がフランスに赴任されると、学内の様子を伝えるエアメールのやりとりをしていたのだとか。なんともロマンチックなお話です。お付き合いをしていたときは遠距離恋愛状態だったので、二人でどこかに遊びにいったということはあまりなかったそうです。新婚旅行はご主人の仕事も兼ねて「伊勢志摩へおいしいものを食べに」。そして、結婚を機に退職されます。

生協との出会い

きっかけは「無漂白」表示

子どもが生まれ、ベビー服を買おうとしたら「無漂白」という表示を見つけました。「それまで、漂白や着色料、添加物などを意識したことはなかった。調理の現場では生の食材を使っても、普段の生活では、必要なかった。でも、普段の生活では、保存のために使われているでしょう」。買い物をするときに表示をチェックするようになったのは、そのときから。家族の安全な暮らしのために、身近にあるさまざまなことに関心を向けるようになります。仕

まる場所も、子どもが集まる場所も、同じところでやりたい。高齢者にとっても、子どもと触れ合うことは大切だから」と話されます。

「立派な箱が大切なんじゃない。地域のハンドメイドでつくっていくことが大切」。そして、「つくっていく姿を周りで見せることが大切」なのだ。自分たちの活動を周りに見せることで、大淀の地域活動はひろがり、次の世代につながっていきます。

木下さんはけっして、私がこれをやった、と誇らしげに話されることはありません。こんなことがやりたい、という企画立案をすることは多いですが、周りを巻き込み、輪をひろげることを大切にされています。一緒に活動する仲間を大切にされるところに、木下さんを理解するヒントが隠されているようです。

口癖のように「みんながいるからできる。ひとりではできない」と語ります。

木下さんの活動の根本には、安全な暮らしを希望することがあります。中国本土を巡る旅行で、日本での安全な暮らしはあたりまえではないと気づき、水俣病の話で、環境と暮らしのつながりを意識する。そのときは、忙しさにかまけて忘れてしまっていた、心の深いところに突き刺さったトゲが、家族を持ったことで、「より安全に暮らしたい」と、痛むようになりました。

さらに、木下さんは、生粋の大淀人です。「自分たちの安全な暮らしは自分たちで守る」ための行動は、大淀の「自分たちのことは自分たちでやる」スタイルと、どこかつながっているような気がします。

最後に。木下さんは、悩んだり、落ちこんだりしません。周囲のじゅつとした気分を吹き飛ばすほどの、カラッとした明るさの持ち主です。絶えることのない笑顔は、ぶれない強さの証しです。あたりまえのことであたりまえにする熱意があります。明るさだけでなく、熱さも含めて「サンサン」。木下さんにお会いしたあとは、サンサンと、素敵な気分になります。サンサン！（終）